

7 消防、救急

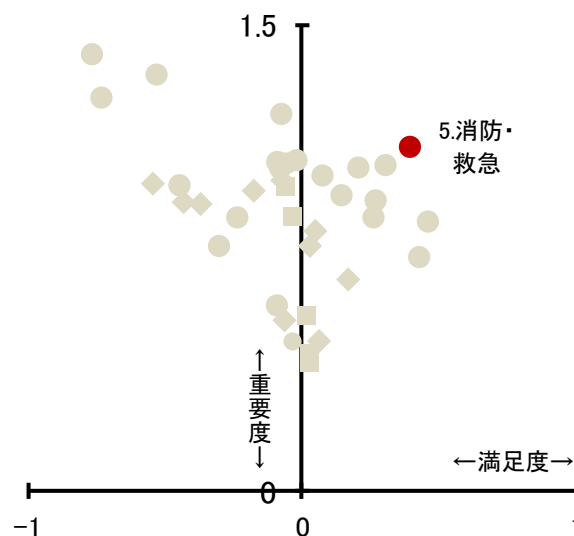
(1) 関連グラフなど

【問2】暮らしの満足度・重要度

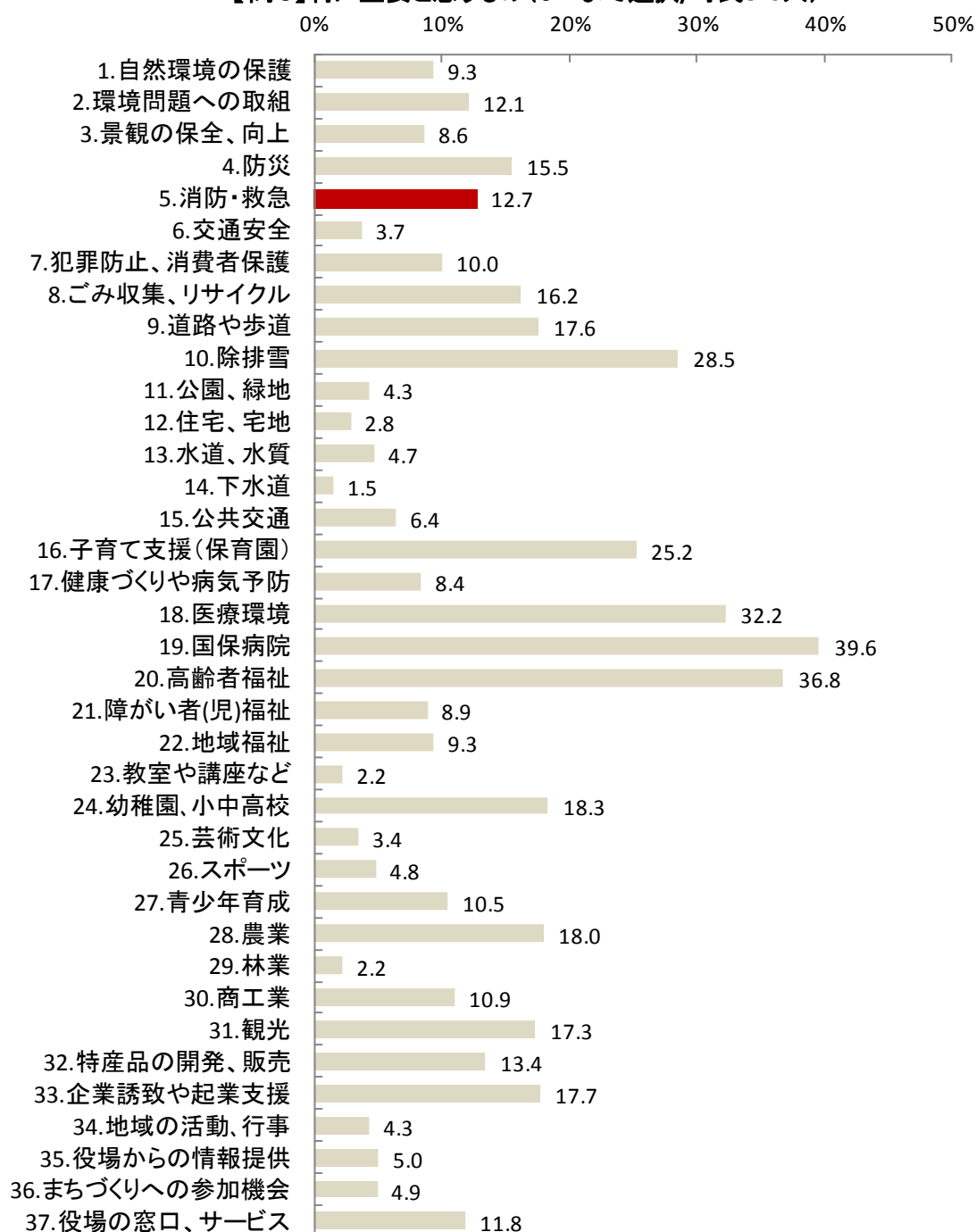
満足度をヨコ軸、
重要度をタテ軸にした場合の
位置づけです。

【問3】特に重要なもの

問2と同じ37項目の中から、
特に重要と思う項目を
5つ選んでもらった位置づけです。



【問3】特に重要と思うもの(5つまで選択/町民813人)



(2) 現計画の検証

施策	主な取り組み	進捗状況	問題・課題	今後の見通し、方向性
常備消防体制の充実	消防車両の更新整備	計画通り進行中であり、H26年度高所作業車の整備については、平成27年2月に納期予定。	消防車両等を整備するにあたり、補助要望・有利な起債活用等の財源確保。	災害活動では必要不可欠であり、整備計画により更新を図りたい。
	災害活動用職員貸与品の更新	H22・23年度防火衣更新済。	他の災害活動用貸与品についても、経年劣化等により逐次更新必要がある。	各種災害の貸与品は、身体保護・事故防止に必要なものであり、整備計画により更新を図りたい。
	消防無線のデジタル化（広域化・共同化）への移行	H25.4.1からデジタル無線の運用を開始し、データ伝送による迅速確実な災害情報の伝達及び災害弱者などの支援情報伝達が向上し、通信の秘匿性が強化された。	通信指令施設と合せデジタル無線施設・設備の更新等維持管理経費の確保。	更新・整備計画により、維持管理を図る。
火災予防活動の推進	住宅用火災警報器の設置促進	広報誌、防火教室・イベント等において住民PR実施。設置率が向上している。（平成23年3月57.7%⇒平成26年3月78.9%）	未だ未設置世帯に対しての、より効果的な普及啓発が課題である。	全戸設置を目標にPR活動の継続。制度開始から8年を経過し、電池切れへの対応等適切な維持管理広報への転換。
	消防関係団体との連携による啓発活動の充実	火災予防運動等諸行事における啓蒙活動、消防弱者宅への防火訪問等を計画通り実施している。	特になし	近年、火災発生が減少傾向にある。外郭団体との啓蒙活動が大きいことから今後も連携を図る。
消防団・その他の組織の充実	自主防災組織については、「6.防災」に記載			
	消防団員の確保、育成	団員数は現在102名で定員数には8名足りないが、団員が働いている職場からの入団者を重点に呼びかけ実施している。	不足8名の内4名は女性であり、女性団員の確保が課題である。	団員が務めている会社を重点的に団員募集をしていきたい。女性団員の確保については自治会婦人部等又は広報紙に掲載依頼し募集したい。
救急体制の強化	救急救命士の養成（増員）	平成23年度で事業完了		
	救急車両・資機材の更新整備	H25年度防衛補助事業による高規格救急自動車・救急資機材の更新整備済み。	高規格救急自動車・救急資機材を整備するにあたり、補助要望の結果により更新時期が延伸される可能性が高い。	2B型救急自動車を高規格救急自動車に更新整備する。H27年度に防衛補助事業の補助要望し、H28年度に事業実施予定。
救命に関する技術や知識の普及	普通救急講習およびAED講習会の推進	後期の講習会で年間平均約400名の講習を実施（普及目標～人口の35%、約7,000人）。現在、受講者数6,824人（再講習を除く）	特になし	救命入門コースや分割講習、WEB講習の活用により更に受講しやすい環境を築き継続普及に努める。

※ A E D : 自動体外式除細動器。心臓が突然停止した際に電気ショックを与え、心臓の働きを戻すことを試みる医療機器。平成 16 年から一般の人也可以使用することが認められた。

(3) 意見、提案

☺ : 小学生 ♂ : 中高生 ♀ : 育児ママ ♏ : 自衛隊 ♀ : 高齢者 ● : 町民 ○ : 職員

- 救急車は有料にした方がいい(タクシーの基本料金以上)。病院代と一緒に支払う。(女性・40代)
- 消防庁舎の建て替え。現在の庁舎では大規模災害が起こった際に、現場指揮や災害対応する能力がなく、逆に被災し現場対応をすることが出来ないことで、対応の遅延により町民の不安が煽られると思われる。